

三重県立熊野古道センターからのてがみ

“The Letter from Mie Prefecture Kumano Kodo Center”

2009, VOL.10

人から人へ種が繋ぐ明るい未来!!



可能性は無限大！
[But-a-I]を使ってみませんか？

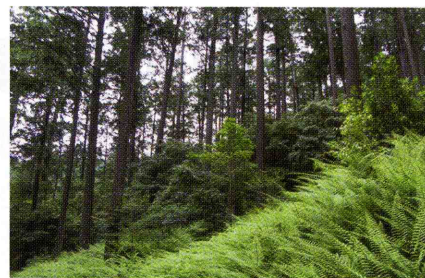
熊野古道センターでは、この尾鷲ヒノキの[But-a-I]を、芸術活動や、アイデア発表の場として、皆様に自由な発想で使っていただければと考えています。利用は無料ですが、貸出にあたって条件もございますので詳しくはお問合せください。

いま、熊野古道センターの芝生広場には、東紀州地域の特産品である尾鷲ヒノキの間伐材を2,800本使った舞台が設置されています。(2009年5月10日まで設置予定。)

このヒノキ舞台は、現代アートの代表的作家・日比野克彦氏と舞台演出家・野田秀樹氏が、演劇と現代アートのコラボレーションにより新たな可能性を探る“日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式 meets NODA [But-a-I]” (金沢21世紀美術館主催)の一環として、制作されたものです。昨年11月27日には、熊野古道センターで日比野克彦氏のアーティストトークを開催し、[But-a-I]に込めた思いをたっぷり語っていただきました。

日比野さんは近年、各地で地域の特性を活かしたワークショップを行っています。きっかけは、新潟県の廃校になった校舎を朝顔で覆

うという2003年のアートプロジェクトでした。地域の人たちと朝顔の種を植え、栽培して種を収穫し、その種を新しい地に運んで、再び栽培する…。今やこのプロジェクトは全国18ヵ所へと広がり、人と人、地域と地域との交流が様々な繋がりを生み、育まれています。熊野古道センターに設置された[But-a-I]も新しい種となり、この地方ならではの、人と自然が出会える場所としての魅力や文化が広がってほしいと日比野さんは願っています。



ヒノキの植林

また、古くから人々の暮らしを支えてきた当地域の林業では、健全な森林を育成するための間伐が実施されず、荒廃した山が増えています。今回のプロジェクトで使用された尾鷲ヒノキの間伐材のように、新たな木材利用によって林業が再び活性化することで、尾鷲ヒノキから生まれた新たな繋がりが、人から人へ、地域から地域へと、私達の明るい未来に続いてほしいと感じています。



ヒノキ舞台について語る日比野さん

第4回 熊野古道写真学校参加者募集

世界遺産登録5周年記念「熊野古道写真学校～心に焼き付ける新緑の熊野～」

世界遺産である熊野古道や自然、人々が暮らす町や里を舞台にした写真学校です。講師の方からアドバイスをいただきながら、新緑がとても美しい5月の熊野で写真技術の向上を目指しませんか？

当日には(社)日本写真家協会副会長で、熊野古道写真学校々長でもある竹内敏信先生も来校予定です。

◇開催日：平成21年5月15日(金)～5月17日(日) ◇参加料：33,000円(2泊6食付)

◇集合：15日 13:30 三重県立熊野古道センター ◇定員：60名(各コース20名)

◇場所：三重県熊野市・御浜町・紀宝町

◇選択コース：①清水重蔵ゼミ *漁村や山里を中心に撮影
②山口典利ゼミ *熊野古道周辺を中心に撮影
③杉本恭子ゼミ *豊かな自然を中心に撮影

◇申込先：熊野市観光公社(TEL:0597-89-2229 FAX:0597-89-3300)



幻想的な熊野古道



第3回熊野古道写真学校の写真クリニックの様子

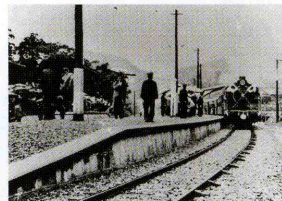
「紀勢線全通50周年記念展」に関する資料提供のお願い

熊野古道センターでは、本年7月の「紀勢線全通50周年」を記念し、「熊野へ結ぶ5本の道ー紀勢線全通50周年記念ー(仮題)」の企画展開催に向け、現在調査を行っています。熊野古道や鉄道、航路、初期国道、省営バスに関する資料をお持ちの方がいらっしゃいましたら、写真や新聞記事など、どのようなものでも結構です。ご提供をお願い申し上げます。

問合せ：三重県立熊野古道センター TEL:0597-25-2666 担当：縣



矢の川峠を運行した省営バス



昭和30年代初めの紀勢線
(熊野市歴史民俗資料館/提供)

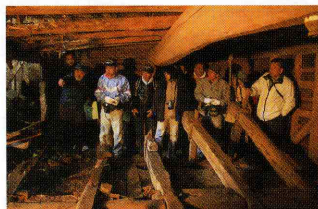
さようなら“湊の車” — 東紀州最後の線香車

イベントレポート

Event Report

杉葉線香用の杉葉を製粉する水車(線香車)として、三重県で唯一現存した直径5.5mの大水車“湊の車”(熊野市新鹿町)の取り壊しが、現在、道路建設のために進んでいます。

企画展「熊野杉葉線香ものがたり」(平成20年11月1日～平成21年1月12日開催)では、この水車小屋をモデルに、当地域で盛んだった杉葉粉・杉葉線香産業について紐解き、付属企画ツアーではたびたび現地へ訪れました。「こんな重い杵が水の力で動くの？すごい。」と驚きを隠せない子どもたちや、「全身真っ黄色になって働く線香守の姿が懐かしい。」と目を細める人もいらっしゃいました。この企画展を通して多くの方の記憶に刻まれた“湊の車”との別れが、消えゆく伝統産業の新たな展開の始まりとなれればと考えています。



“湊の車”水車小屋内部



杉葉集めの女たち
(背景は“湊の車”をモデルに描かれました)

まめ熊野塾 Guide & Tips

「海からの恵みに感謝する、クジラの供養塔」

明治13年(1880)、シャチに追われて一頭のクジラが脇の浜(現熊野市)に打ちあがりました。このクジラを売って得た1500円の一部は、木本小学校の建築費に寄付され、地元の住民はクジラを弔うため、供養塔を建立しました。この石塔は、熊野市木本町の西郷川橋下に現在も残されています(熊野市指定文化財)。

むかしから捕鯨により栄えてきた熊野灘沿いの浦村には、他にもクジラにまつわる石造物や絵図が数多くあります。これらには、海からの恵みに感謝を忘れない、熊野の浦人たちの心があらわれています。



クジラの供養塔
(熊野市木本町)



ランチバイキング営業時間 am11:00～pm2:00

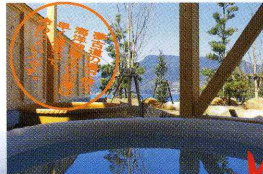
お母さんのランチバイキング

スカイワード

大人(中学生以上) 1,200円
高齢者(60歳以上) 1,000円
子供(小学生から) 700円
乳幼児 無料

夢古道おわせ
触れて
感じて
味わって
おわせ
http://yumekodo.com/

熊野古道センターの斜め上



営業時間 入浴 午前10:00～午後9:00

紀伊半島でここだけ/
海洋深層水浴施設

夢古道の湯

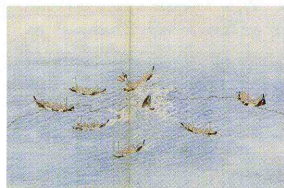
入浴料 大人 600円(中学生以上)
高齢者 500円(65歳以上)
子供 300円(4歳以上小学生)
4歳未満：無料

開催期間／平成21年1月24日(土)～平成21年4月5日(日)

時間／9:00～17:00 場所／企画展示室 入場料金／無料

共催／太地町立くじらの博物館、三重大学人文学部伊勢湾・熊野地域研究センター、海の博物館

捕鯨の様子やクジラの姿を描いた絵図類を眺めながら、クジラに挑み、またその恵みを受けてきた当地域の風土を感じていただくことができる展示です。



『三重県水産図解』(三重県蔵)の捕鯨絵図

春休み特別企画「クジラ“ふしぎ”発見!!」

平成21年3月22日(日)

クジラは何を食べるんだろう? など、クジラの“ふしぎ”について、楽しくわかりやすく解説します。当日はクジラの歯や骨にも触ることができます。これであなただけクジラ博士だ!!

◇時間／13:30～15:00 ◇参加料／無料
◇定員／50名(要申込) ※席に空きがあれば当日参加可
◇場所／映像ホール
◇講師／吉岡基氏(三重大学生物資源学研究所教授)
櫻井敬人氏(太地町立くじらの博物館学芸員)

4/25~
sat.

原秀雄・南秀明<熊野・気のかたち・木の工芸>展

開催期間／平成21年4月25日(土)～5月24日(日)

時間／9:00～17:00 場所／企画展示室

入場料金／無料

十津川村在住の自然造形作家・原秀雄氏と、熊野の自然に魅せられた熊野市の木工芸家・南秀明氏による二人展。流木、蔓、石などの熊野の自然素材を、花器やライティングオブジェに変身させた作品と、指物や削り物などの伝統技法による木工芸作品のコラボレーションをお楽しみください。



提げ箱(柄)



ライティングオブジェ

体験教室

東紀州の四季を味わう料理教室

東紀州の特産品を使用し、料理初心者の方も熟練された方も楽しく、気軽に参加していただける料理教室です。5月はしらす、6月は紀和牛を食材にしたメニューを予定しています。

◇日程：5月31日(日) 6月14日(日)
◇時間：10:00～13:00 ◇参加料：2,000円 ◇場所：体験学習室
◇定員：24名 ◇講師：村林新吾氏(相可高校食物調理科教諭)

ひのきアート教室 月別

3月22日(日)：鯉のぼり作り
4月19日(日)：へむへむお風呂セット作り
5月24日(日)：アクセサリー作り
◇時間：13:00～16:00 ◇参加料：3月 1,500円、4月・5月 1,000円
◇定員：10名 ◇講師：NPO法人海虹路会員
毎週日曜日には、マイ箸やしおりなどその場で作れるひのきアート教室開催! ※日程が変更となる場合有り。

講座・講演

4月18日(土) 熊野古道講座「山菜に親しみ味わう会」

小学生以上を対象に、自然が溢れる熊野古道センター周辺の野道で、ヨモギ、タンポポなどの山菜を採集し、体験学習室でおいしく調理して味わいます。

◇時間：9:00～12:00 ◇参加料：500円(保険料を含む) ◇定員：15名
◇場所：熊野古道センター周辺及び体験学習室
◇講師：岩崎哲也氏(熊野の自然を考える会)

5月23日(土) 熊野古道講座「弁財島の海の生き物観察会」

小学生以上を対象に、貝類、その他海の生物の観察会を行います。海の生物を追いかけながら、不思議な発見や驚きを感じ、海の楽しさ方を広げていきたいと思います。

◇時間：9:00～12:00 ◇場所：熊野古道センター前、弁財島周辺
◇講師：保平長三氏(日本貝類学会会員)

※詳細は決定次第お知らせいたします。

交流イベント

4月25日(土)・26日(日)

日比野克彦アートプロジェクト「ホーム→アンド←アウェー」方式
尾鷲ヒノキ舞台プロジェクト[But-a-I]

仕掛け人である現代アーティスト・日比野克彦氏を迎えてのワークショップ開催決定!!
※詳細は決定次第お知らせいたします。

新しい古道の歩き方

4月4日(土)「石蔵の風景に出会う旅+ほのぼののスケッチ♪」

130年前に地元の石切職人によって建てられた熊野石蔵美術館(国指定登録有形文化財)を訪ねます。のどかな山里・五郷町の美術と石文化に触れ、旅の一枚を描きませんか?

◇時間：10:00～15:30 ◇参加料：2,000円(昼食・保険料を含む) ◇定員：20名
◇場所：熊野市五郷町 ◇講師：由垣内康夫氏(美術教師、画家、熊野石蔵美術館長)

4月19日(日)「孫太郎の海を巡る旅(仮題)」

地元の人々に“孫太郎”のニックネームで親しまれている渡り鳥・カンムリウミスズメ。“孫太郎”が繁殖のために毎年帰ってくる紀伊長島沖をクルージングし、その豊かな海を育む魚付林を歩きます。

◇時間：9:30～15:00
◇参加料：5,500円(昼食・保険料を含む。料金のうち2,000円は乗船券を現地でお買い求めいただけます。)
◇場所：紀北町島勝浦・紀伊の松島周辺 ◇定員：10名
◇講師：堀内弘氏(国設紀伊長島鳥獣保護区管理員)、川口洋司氏(熊野古道語り部友の会)

カンムリウミスズメ
(国の天然記念物、絶滅危惧Ⅱ類)

5月31日(日) 進め!!大又川探検隊

熊野市飛鳥地区を流れる清流・大又川の源流を訪れ、手付かずの自然のなかで植物や虫などについて楽しく学びます。

※詳細は決定次第お知らせいたします。

ゴールデンウィーク中のイベント

4月29日(水・祝) 第2回熊野古道センター音楽祭～音のめぐり逢い～

熊野古道を音楽により表現し、音楽を通しての様々な交流が生まれる参加型の音楽祭を開催します。昼の部では、本木高校吹奏楽部の演奏会や、一般公募からの参加者の方もバンドに加わっての合同演奏を、夜の部ではバンド・アーティストによるライブをお楽しみください。観覧無料!!

<昼の部> ◇時間：14:00～15:30 ◇場所：交流棟大ホール ◇定員：180名
◇出演：本木高校吹奏楽部・一般公募演奏家
<夜の部> ◇時間：18:30～21:00 ◇場所：交流棟大ホール ◇定員：180名
◇出演：大西由希子(ジャズサクソプレーヤー)

※出演者募集!! ※

<昼の部> 本木高校吹奏楽部との合同演奏にご参加くださる一般演奏者を20名募集しています。
募集締切：平成21年4月15日(水) 申込方法：応募用紙に必要事項をご記入いただき、熊野古道センターまでFAXまたはメールでお申し込みください。(応募用紙はホームページでダウンロードできます。)

5月3日(日)～5日(火・祝) 第15回 陶の会作陶展

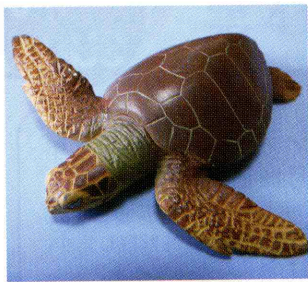
おわせ陶の会々員(35名)の陶芸作品展(約150点)を開催いたします。また、池坊名古屋支部仙潮会生花展と、茶道裏千家茶友会の呈茶会(有料)も同時開催いたします。

◇時間：9:00～18:00 但し最終日の5日は16:00まで ◇観覧料：無料
◇場所：熊野古道センター交流棟・展示棟 ◇主催：おわせ陶の会
◇共催：三重県立熊野古道センター

熊野古道から のがみ

熊野古道から
のがみ

10 通目



世界遺産浜街道に産卵のため
上陸するアカウミガメ

私が熊野市へ移り住んだのは40才後半のことで、はや12年が経った今ではたくさんの方の友人や仕事仲間ができました。熊野へ来た頃には、自分の家族、親戚、隣の人だけが顔見知りでした。これから熊野で何を楽しく、だらよいのだろうかと思ったとき、まず頭に浮かんだのは魚釣り、毎日毎日飽きもせず魚釣りをしていました。

その頃はまだ近所の人、町内の人とは挨拶を交わす程度でしたが、町内の祭りに参加しないかと誘われ、平成11年、紀伊長島漁港で開催された「東紀州体験フェスタ」で、川野太郎さんや斎藤慶子さんが出演された「東紀州シンフォニー」古道の旅人」という市民参加の演劇に町内のお神輿を担いで参加させて頂いたのがきっかけで、その時から熊野人になれたような気がしました。熊野の同年代の人、年上の人から山登りや世界遺産になる前の熊野古道に誘われ参加するようになり、だんだんと

筆リレー

次は紀北町の
宮原美智子さん



下浜興一郎さん (熊野市)
熊野古道語り部友の会会員

知り合いの輪がふくらみ知人友人が増えってきました。いまでは熊野古道関係の友達が一番多く、熊野市のみなならず新宮市から紀北町紀伊長島区までたくさんの方と知り合うことができました。最近では自分より熊野古道関係の知り合いが多いのではないかと、友人に冷やかされることもありますが、これからの、どんな友達を増やしてゆきたいと思っています。もし何処か古道の峠で出会うことがありましたら声を掛けてください。そして友達になってください。

今、熊野に移り住んでよかったと思っています。これから山登り、そして熊野古道語り部を通して熊野を案内しながら、地元の人や古道のお客さんとのふれあいを楽しみたいと思います。



花尻薫からの季節のたよりNo.10 「牛のしらみ取り」と呼ばれる植物

明治生まれと大正12年生まれのおばあさんに、熊野市紀和町の板屋で珍しい植物の話聞くことが出来ました。「私ら子どもの頃の事だが、牛にしらみがわくと牛のしらみとりという木で退治したぜ。」と教えてくれました。

植物のなかにそのような名前は無いので、「それは何ですか。」と問い正したところ「牛にしらみがわいたら、ハゴモリの葉を籠に何杯も採ってきて、大きな釜でぐらぐら沸かして煮えたところ、火を止めると緑色の汁がようけとれたぜ。」ということでした。昔は一軒一軒の農家で牛を飼育していました。牛舎は暗く、湿度も高いので夏になると牛はしらみに悩まされたようです。「牛を飼っている家では牛を外に出してな、ハゴモリの汁を足の方からようつける、そしたら、しらみは体の上へ上へと登ってくるよ。

体の後ろの方や首へも塗り、しらみを角の下ひたいの平たい所へ集めて、虫殺しの粉(殺虫剤)で殺したよ。その後、牛を川原へ連れて行き水をかけ、死んだしらみを流したんや。」と教えてくれました。「牛のしらみとり」とは*アセビのことで、漢字では馬酔木と読みます。馬が葉を食べると酔った状態になることから名付けられたようです。山羊や牛が食べると足しびれのようなになるので、「足しびれ」がアセビに変化したといわれています。人間も口に入れない方が無難です。※紀和町の方言ハゴモリ、和名アセビ



アセビのつぼみ

[But-a-I]でのイベント情報

コーコとサナンナの「毛糸でアート!」 一日体験ワークショップ

[But-a-I]に色とりどりの毛糸を使い参加者全員で一つの空間を作りあげていきます。

日時: 平成21年3月28日(土)・3月29日(日)
13:00~15:00

参加費: 2,000円(材料費込み)

定員: 各日40名(要申込・先着順)

講師: 野間 玲子・大西 佐奈

パッチワークツアー2009

〜ツギハギだけどなんかあったかい!〜

ギターとパーカッションからなる親子バンドの
アコースティックコンサートです。

日時: 平成21年4月18日(土) 14:00~15:30

入場: 無料 主催・演奏: 不安定ユニット らも



- お車: 国道42号線で尾鷲市内→矢の浜南交差点を海側へ曲がる→突き当たりを右折→県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)
- 電車: JR尾鷲駅下車→(徒歩5分)三重交通「尾鷲駅」バス停→「紀伊松本行き」乗車→「熊野古道センター前」下車(バス乗車時間約10分)
- 松阪駅→南紀特急バス「熊野古道センター行」終点下車(2時間)

☆熊野古道センターニュースレター☆ “熊野古道センターからののがみVol.10”

●発行日: 2009年3月10日(季刊)

●編集・発行: 三重県立熊野古道センター
(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道
自然・歴史・文化ネットワーク)

●編集担当: 野田

●連絡先: 〒519-3625

三重県尾鷲市大字向井字村島12番4

TEL0597-25-2666 FAX0597-25-2667

Mail info@kumanokodocenter.com

H P http://www.kumanokodocenter.com/

●開館時間: 午前9時~午後5時

●入場料: 無料

●休館日: 12月31日、1月1日

(その他メンテナンス時休館) 6000090310RN